

中学校第 3 学年 学級活動指導案

日 時 平成 28 年 7 月 7 日(火) 2 校時

指導者 教育センター所員 高取 照秋

- 1 題材名 「私が進む道」 ～進路実現計画（やまとプラン）を発表し、見直しをしよう～
内容（3）学業と進路 オ 主体的な進路の選択と将来設計

2 題材について

(1) 生徒の実態

- ・キャリア教育アンケートの結果・考察
- ・生徒の進路意識について

※Web 掲載の都合上、省略しています。

(2) 題材設定の理由

近年、社会経済や産業的環境の国際化などにより社会が著しく変化している。それらは子供たちの成育環境にも影響し、夢や希望を自由に描ける社会とは言い難くなってきている。これからの社会を担う子供たちが、夢や希望をエネルギーにして自立した大人となり、充実した人生を送っていくことは重要な課題である。そこで、中学校 3 年間のキャリア教育は重要な位置付けになる。例えば、生徒がこれから生きていく中で、壁にぶつかったり、自分で選択したりしなければならない場面に遭遇することは多々ある。どんな困難にぶつかっても、最終的には自分で考え、課題を解決し乗り越えていかなければならない。そのためには、困難に直面しても解決しようとする課題対応能力が必要であり、それを支えるのが社会形成能力や、将来について考えるキャリアプランニング能力であると考え。また、中学 3 年生は、人生の中で最初の壁といえる「高校入試」を迎え、それを乗り越えなければならないという大切な時期である。そこで、日々の学習や生活に具体的な行動目標をもち、それを実践できる生徒を育てるために、PDCA サイクルの機能を生かした学級活動の指導を行う。進路実現に向けて学習面、生活面など具体的な目標を設定し、目標を実践、評価し、そこで出た課題を次の目標設定に生かす指導を繰り返していく。生徒は、目標を設定し、具体的な対策を考える中で、迷いや不安が生じたり、強いプレッシャーを感じたりすることもある。一連のサイクルの評価と修正の段階で、話し合いによる相互理解の場を設定し、「自分もできそう」と自己に対する信頼感や有能感を高めさせれば、迷いや不安を減らし、継続的、計画的に目標の達成へ向けて努力することにつながると考え、本題材を設定した。

3 指導のねらい

日々の学習や生活に具体的な行動目標をもち、それを振り返り、修正する活動を通して、それぞれの進路実現へ向けて共に取り組んでいこうとする雰囲気をつくり、よりよい学級集団づくりに資する態度を育む。

4 学級活動（3）の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
人間としての生き方や学ぶこと、働くことなどに関心をもち、自己の良さを伸ばしながら、自主的、自律的に日常の生活や学習に取り組もうとしている。	自己の将来に希望を抱き、その実現に向け、現在の生活や学習を振り返り、これからの自己の生き方などについて考え、判断し、実践している。	学ぶことや働くことの意義や自己の能力や適性、進路選択に必要な情報収集や将来設計の仕方などについて理解している。

5 指導の視点

講座テーマ「キャリア教育の視点に立った特別活動の指導」

本時の学級活動の内容を、キャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力の一つである「キャリアプランニング能力」の育成として捉える。学校生活において、生徒が学習面や生活面に具体的な行動目標をもち、実践し、評価、改善していく取組は、社会人・職業人として生活していく上でも必要となってくる。また、教師が小グループによる話し合う場面やお互いに励ます場面を設定することで、目標設定の理由や目標達成へ向けた具体策を明確にさせ、実践への意欲を高めさせたい。

6 指導の過程（全 4 時間）

(1) 事前の指導と生徒の活動

日時	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価の方法
5月 第4週	・「聞かせて将来の夢」 ～将来の夢について語り合おう～	・オープンクエスチョン形式で聞き合う活動を通して、聞き方を整えることの重要性を気付かせる。 ・お互いの将来の夢について話し合うことの楽しさを実感させる。 ・夢の実現に向けてすべきことを考えさせ、目標をもつことの大切さに気付かせる	【思考・判断・実践】 自己の将来に希望を抱き、その実現へ向け、現在の生活や学習を振り返り、これからの自己の生き方について考え、判断し、実践しようとしている。 [ワークシート, 観察]
6月 第1週	・進路実現計画（やまとプラン）を作り、みんなに話そう	・毎月の目標を書かせる。 ・進路実現計画表に書いたことを発表させた後、目標を応援する、励ますようなコメントを班員からもらい目標達成への意欲を高めさせる。	【関心・意欲・態度】 自己の良さを伸ばしながら自主的、自律的に日常の生活や学習に取り組もうとしている。 [ワークシート, 観察]

(2) 本時の指導と生徒の活動

ア 本時の課題「『やまとプラン』をより具体的なものにしよう」

イ 本時のねらい

6月の目標の反省について、グループ内で聞き合う活動を通して、予め立てていた7月の目標をより具体的なものに修正させる。また、グループによる励まして、目標達成への意欲を高めさせる。

ウ 展開

	学習内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法	
導入	1 今までの活動の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの振り返りを、電子黒板を用いて行う。 ・PDC Aサイクルによって仕事が進められていることを紹介し、学校生活へ応用できることを気付かせる。 		
	2 PDC Aサイクルについて理解する			
3 学習問題をつかむ				
グループ内で話し合いながら見直し、修正を行い、より具体的な『やまとプラン』を作成しよう				
展開	4 話し合いの仕方を聞く <ul style="list-style-type: none"> ・6月の反省を『やまとプラン』からワークシートに転記する。 ・役割分担（質問される人、質問する人、記録者） ・質問する人は、オープンクエスチョン（「はい」、「いいえ」にならない質問）で質問する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習面のみ転記させる。 ・オープンクエスチョンの出し方について具体例を考えさせる。 	【関心・意欲・態度】 <ul style="list-style-type: none"> ・グループでの自分の役割を踏まえて話し合いに参加し、目標達成への意欲を高めている。 [ワークシート, 観察]	
	5 グループで質問・応答をする			・話し合いの仕方に沿って進行させる。
まとめ	6 グループのメンバー同士で励ましのコメントを書く <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを回しながらコメントを書いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を応援する、励ますようなコメントを書かせる。 ・質問の回答や班員からのコメントを見ながら振り返らせる。 	【思考・判断・実践】 <ul style="list-style-type: none"> ・班員からの質問の回答内容や班員からのコメントを踏まえて、7月の目標をより具体的なものに修正している。 [ワークシート]	
	7 質問を受けて、7月の目標の加筆・修正をする			・7月の目標を発表させ、それに対する応援コメントを発表させる。
	8 教師の話聞く			・実践へ向けて活動意欲を高めることができるように助言する。

(3) 事後の指導と生徒の活動

日時	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価の方法
9月 10月 11月 12月 1月 の各 第1週	・前月の目標の反省をグループ内で発表し、グループからの質問の回答やコメントを基に、今月の目標をより具体的なものにします。	・当初立てた目標と修正後の目標の違いより、進路実現へ向け、P D C Aサイクルを活用して取り組むことの大切さに気付かせる。	【思考・判断・実践】 ・班員からの質問の回答内容や班員からのコメントを踏まえて、今月の目標をより具体的なものに修正している。 [ワークシート] 【知識・理解】 ・P D C Aサイクルを活用した進路実現計画の方法を理解している。 [ワークシート・観察]

※ 時配について

事前指導2次目の活動について、今回は学級活動として実施しましたが、朝の会や帰りの会の時間を数回利用して実施できると考えます。

また、9月以降の進路実現計画（やまとプラン）の評価・修正については、生徒の活動がスムーズになっていくことを考慮すると、学級活動の時間ではなく、朝の会や帰りの会等を活用して短時間で実施できると考えます。